

2022年1月24日

日本コカ・コーラ株式会社

コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社

## 日本コカ・コーラとコカ・コーラ ボトラーズジャパン、 森ビルなどと協業し六本木ヒルズでの 「ボトル to ボトル」リサイクル実証実験に参画

～六本木ヒルズ内で回収された事業系 PET ボトルを、  
再びコカ・コーラ社の容器としてリサイクル～

日本コカ・コーラ株式会社とコカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社は、2021年11月18日（木）より都市部の事業所における資源循環モデルの構築と持続的運用に向けた「ボトル to ボトル」リサイクル実証実験プロジェクトチームに参画しました。本実証実験は、森ビル株式会社が運営する六本木ヒルズ（東京都港区）において、事業系 PET ボトルの新たな資源循環モデルの確立を目指す日本初の取り組みで、環境省の「令和3年度バイオプラスチック及び再生材利用の促進に向けた調査・検討委託業務」の一環である『環境省 プラスチックの資源循環に関する先進的モデル事業』として実施されるプロジェクトです。

### 一般的な容器リサイクルのプロセスと新プロジェクトのプロセス



本実証実験は、六本木ヒルズ 森タワー内の実証実験対象エリアで発生した使用済み PET ボトルを、専用の自動回収機(RVM)と既設の分別回収ボックスで回収し、飲料用 PET ボトル容器として再生させる「ボトル to ボトル」リサイクルの具現化を目指し、排出事業者と飲料メーカー、リサイクラーの協働による新たなシステムの構築および運用に挑戦します。通常、使用済み PET ボトルの回収からリサイクルまでは複数の業者・ルートを経由しますが、本実証実験では森タワー内で回収・圧縮まで行い、圧縮した PET ボトルを直接「ボトル to ボトル」のリサイクルを行うリサイクラーに輸送することで、輸送効率を高めながら確実にリサイクル用の資源として提供します。本実証実験で回収された PET ボトルは、「ボトル to ボトル」により、再びコカ・コーラ社製品の PET ボトルへとリサイクルされる予定です。新たな循環モデルが確立されることで、PET ボトルの輸送・処理によって発生していたコストと温室効果ガス排出の抑制につながることに加え、日本の PET ボトル回収率(96.7%。2020 年度。「PET ボトルリサイクル年次報告書 2021」より)のさらなる向上と、「ボトル to ボトル」によるリサイクルの普及が期待されます。



左: 実証実験対象エリア内に設置される専用の自動回収機(RVM)

右: 森タワー内の PET ボトル圧縮機(ベラー)

日本コカ・コーラは、本実証実験に対して水平リサイクル推進にまつわる知見を提供するとともに、「ボトル to ボトル」を実現するリサイクラー等との関係コーディネートとプロジェクトの効果検証を担当します。

六本木ヒルズのコラボレーションパートナーを務めるコカ・コーラ ボトラーズジャパンは、施設内に設置された約 100 台(2022 年 1 月時点)のコカ・コーラ自動販売機等を活用し、施設利用者に対して飲料容器の適切な分別回収を促すとともに、資源循環利用の啓発に協力します。

2 社およびプロジェクト参加企業は、本実証実験を通して、資源循環の主たるプレーヤーである生活者に日常における行動変容を促すとともに、資源の効率的な利用を通じて、日本の資源循環の推進に貢献することを目指し、一連の事業で発生する CO2 発生量も抑制可能な新たな資源循環システムの構築、および運用に取り組んで参ります。

## 実証実験の概要

名称:「ボトル to ボトル」リサイクル実証実験

期間:2021 年 11 月 18 日(木)~2022 年 2 月 28 日(月)

場所:六本木ヒルズ

実験内容:PET ボトルの資源回収・循環の試行、持続・水平展開の可能性検証にむけたオフィスワーカーの行動変容の試みと、事業所内における資源選別・減容の実施

【回収】実証実験対象エリア(森タワー42 階森ビルオフィス)への自動回収機設置(2 台)、社員への分別方法の周知

【処理】六本木ヒルズリサイクルセンターにベール機導入、1/8 の容量に圧縮された PET ボトルベールを搬出

【フロー】回収したベールをリサイクラーに直送

※実験期間中に回収される PET ボトルは約 2.1 万本(約 420kg)を想定

実験主体:森ビル株式会社、日本コカ・コーラ株式会社、コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社、トムラ・ジャパン株式会社

### 事業系 PET ボトルの都市型資源循環モデルのイメージ

		既存モデル		実証実験モデル
バリューチェーン	回収	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生活者:「ごみ感覚」で排出</li> <li>●回収拠点:多数且つ未整備</li> </ul>	生活者の行動変容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生活者:資源の分別排出協力</li> <li>●回収拠点:自動回収機の活用</li> </ul>
	処理	<ul style="list-style-type: none"> <li>●外部委託</li> <li>●回収低品質</li> </ul>	回収の効率化	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事業所内で選別・減容処理</li> <li>●輸送効率の向上</li> <li>●資源価値の向上</li> </ul>
	フロー	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中間処理施設で選別・減容処理</li> <li>●複数の物流が発生</li> <li>●トレーサビリティが不明瞭</li> </ul>	資源循環ループ構築 輸送処理コスト削減 環境負荷低減	<ul style="list-style-type: none"> <li>●回収資源をリサイクラーに直送</li> </ul>
パートナーシップ		<ul style="list-style-type: none"> <li>●同一事業所・地域に複数の業者が存在</li> </ul>	地域資源の静脈効率化 資源循環持続	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事業所(デベロッパー)と飲料メーカーの連携</li> <li>●生活者の参加</li> <li>●将来的に地域展開モデルに</li> </ul>

## ■コカ・コーラシステムのサステナビリティへの取り組みについて

日本コカ・コーラ株式会社と全国5社のボトリング会社などから構成されるコカ・コーラシステムは、「世界中をうるおし、さわやかさを提供すること。前向きな変化をもたらすこと。」の事業目的ののっとり、日本が直面する重要な課題に対し、ビジネスを通じて変化をもたらしながら、未来を共創していくことに責任を持って取り組みます。2020年には「多様性の尊重」「地域社会」「資源」の3つのプラットフォームと9つの重点課題を特定し、システム共通のサステナビリティフレームワークを策定しました。各領域において事業活動を通じて社会課題の解決を目指すことで、持続可能な開発目標(SDGs)の達成にも貢献してまいります。詳しい活動内容については、最新のESGレポートをご覧ください。

<https://www.cocacola.co.jp/sustainability>



※ニュースリリースに記載された情報は、発表日現在のものです。最新の情報と異なる場合がございますので、あらかじめご了承ください。